

巻頭言

新たな出発

— 紀要の合本に寄せて —

山陽学園大学・山陽学園短期大学

学 長 齊 藤 育 子

本学が教育研究機関としての使命を果たしていることの一つの証として、本年度も『山陽論叢』第 24 巻発刊の運びとなりましたこと、誠に嬉しく存じます。短期大学初代学長上代皓三先生は、短期大学家政科開設 2 年目の 1970（昭和 45）年、「研究者はその業績を速やかに、かつ広汎に公表する義務を負っている」との立場から短期大学の研究紀要として『研究論集』を創刊されました。同誌は「教員の教育研究成果を幅広く収録する」ため、1994（平成 6）年に第 25 巻から『山陽学園短期大学紀要』と名称を変更しています。同年大学を発足、国際文化学部が設立され、学部の研究成果を収録する紀要として本誌『山陽論叢』を発刊しています。その目的について、大学初代学長福田 稔先生は、「学部構成員に研究業績を発表する機会を与えるとともに、それを通して広く国内および国外における学術の発展に貢献すること」と名記されています。短期大学そして大学、いずれも高邁な理想を掲げ、研究機関としての使命を果たそうとしていた強い意志が伝わってきます。

全国的にも岡山県内を見ても、大学開設はやや時期が遅かったように思われますが、おそらくそれは、本短期大学が教育機関としても研究機関としても十全にその使命を果たしていたからであったと推察しています。そうしたなかで、大学も短期大学も時代や社会のニーズに応じて学部学科の編成を改変してきました。2009（平成 21）年には、看護学部。2013（平成 25）年には大学院看護学研究科、2016（平成 28）年には助産学専攻科を開設。さらに、2018（平成 30）年 4 月には、地域マネジメント学部が新設されることになりました。大学としての発展充実は、地域と共に歩む大学として誠に喜ばしい限りです。

その間新任の教員に加えて、短期大学の教員が大学に所属変更したり、大学の教員が短期大学の授業科目を担当したりと、専任教員は所属を超えて専門性を発揮することとなりました。したがって、所属に関係なく継続的に行っている研究成果の発信をすることになったのです。それならば、上述の理想に基づいて発刊されている学内紀要は、2 本立てでなくとも良いのではないかと考えます。大学運営も所属ごとに実施しなければならないもの以外は、大学と短期大学は一体となって活動しています。

こうした、学内の実情を踏まえ、本年度より『山陽学園短期大学紀要』は、『山陽論叢』に合本することにいたしました。『山陽論叢』は、デジタル化して本学HPからも無料で閲覧することができるようにしています。本誌がこれまで同様に、大学・短期大学の教育研究成果を集録し、当初の目的どおり多岐にわたる学問領域での研究成果の発信により、学術・文化に寄与出来ますよう心より祈念し、本誌の新たな出発の辞とさせていただきます。